

横浜市立 八景小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・重点研の研究テーマを「コミュニケーション能力の育成をめざした学校づくり」と設定し、子ども一人ひとりが「分かる、楽しい」と感じるような授業展開の工夫を図る。本校で培ってきた個人思考から共同思考への学びの形態の有効性を日々の授業で実践していく。今年度は、理科、生活科を中心に、学習環境を整えながら子どもが主体的に学び合う姿を目指す。	・今年度は、理科と生活科を中心に、子ども達が主体的に学ぶ姿を目指して取り組んできた。生活科では、子どもの気づきを大切にし、理科では、興味を引き付ける実験や、結果から分かることをまとめていく考察の場面を大切にに取り組んできた。意欲的に取り組む姿が見られた。今後は、「コミュニケーションの姿をより具体的にしていく。	B
豊かな心	・児童人権委員会「なかよしスマイル会」を通して、子どもたちが日ごろ感じている思いを取り上げ、代表児童が話し合うことを通じて、子どもの目線からの人権意識の向上を図る。道徳を中心にした授業参観を行い、保護者とともに意識を高める。人権週間での「人権集会」、外部講師による人権講演会などを総合的に行い、豊かな心がはぐくめるようにする。	・「なかよしスマイル会」で、各クラスからの困っていることを議題として、話し合いを進めてきた。その話し合いをもとに、人権集会で全校児童に呼びかけて人権意識の向上を図ることができた。人権講演会では、「命の大切さ」について人権擁護委員の方から話をうかがった。道徳の授業参観では、保護者にも理解していただけるよう努めた。	B
健やかな体	・体育科の学習においては、一人ひとりの実態にあつためあてをもち、楽しく運動に取り組めるような授業を展開する。またスモールステップで、自分の成長を実感できるような場を工夫する。・運動に親しみ、健康面・体力面が向上するように、週一回の「外遊びデー」や、「マラソン週間」「長縄集会」等の取組を全校で実施する。	・一人ひとりにあつためあてをもって学習に取り組めるよう、学習カードや練習する場所の工夫などを行った。結果として、成長を実感し、運動を楽しむながら学習に取り組む様子が見られた。また「マラソン週間」「長縄集会」等の取組を通して、運動に親しみ様子が見られた。来年度以降も継続して、取り組む。	B
特別支援教育	・全校の子ども一人ひとりを大切にすることを大前提とし、支援が必要な子どもたちを理解し継続的に支援するために、個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成した。作成や評価する日程を設定することにより、丁寧子どもが安心して学校生活を送ることができるように、スタンダードをもとに職員が同じ方向性をもってぶれない指導を組織的に行う。	・子ども一人ひとりに目を向けて支援が必要な子どもたちに個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成した。作成や評価する日程を設定することにより、丁寧子どもが安心して学校生活を送ることができるように、スタンダードの内容を子どもの実態に合わせて年間複数回見直し、ぶれない指導をすすめてきた。	B
児童生徒指導	・なかよし活動やなかよしグループで全校遠足を実施し、給食交流などを通して、互いに協力し合い、認め合う心情を育て、人間関係をより深めていくようにする。八景小学校の中で、最低限守らなければならないマナーやルールを八景小スタンダードとして作成し、職員間で共通理解を図ると共に、社会の一員として生きていくための規範意識を育てる。	・なかよし活動を通して、上級生と下級生の交流ができ、互いのよさを認めたり、協力して一つのものを作りあげたりして人間関係を深めることができた。八景小スタンダードを職員で共通理解し、子どもの規範意識を高めるよう取り組んだが、様々な状況の中でずれが生じる場面もでてきた。今後さらに見直し、よりよい生活になるよう努める。	B
教育課程・学習指導	・ユニバーサルデザインの考えに基づき、授業に集中できるような環境整備を行うようにする。また、課題解決型の授業を通して主体的な学びになるように学習計画を工夫する。・少人数やTTの授業、AT、取り出し学習などの学習サポーターによるきめ細やかな支援を行うことにより、基礎学力の向上に努める。	・今年度は、特に生活科・理科の学習に重点を置き授業改善を行った。自分の考えや考察を他の児童と比較・検討する場面を大切にしながら学習活動を行うことにより、児童同士の主体的なかかわり合いが深まった。・少人数、ATや取り出し学習を計画的に取り入れ実践したことで、支援を必要とする児童が安心、安定して学習できた。	B
地域連携	・登下校を見守って下さっている見守り隊の方々や学区の商店街との関わりを通して、子どもたちが地域と共に学べる環境をつくる。また、各学年で年間2回実施している地域清掃活動を計画的に行うことで、地域と共に歩む気持ちを育てる。年間の学校、学年行事を地域、保護者に幅広く周知するとともに、時には共に活動できるような内容を検討する。	・年間の学校、学年行事を地域に幅広く周知するとともに、地域のことについて話を伺うことができた。地域清掃活動、見守り隊の方々や商店街と引き続きかかわったり、地域の人材の方々と学びあう機会を行ったりするなどの活動が広がってきている。・来年度はさらに地域との連携ができる活動を重視し、計画的に進める。	B
人材育成・組織運営	・学年研究会を充実させ、教材研究や児童理解を深めるようにする。また、経験豊かな教師が、経験の浅い教師に指導法を伝える研修の機会を設け、各教科の専門性を高めるとともに、メンターチームによる研修を月一回程度設ける。また、職員一人ひとりが組織を意識し、協働しながら組織運営できるようにする。	・学年研究会を充実させ、また主題研究会を通して教員一人ひとりの授業実践力を高めることができた。経験の浅い教師に指導法を伝える機会を設けることができたが、より深い学び合い、指導法の伝達までには至らなかった。メンターの活性化が課題である。・情報機器を活用し、必要な情報をしっかりと共有、かつ簡略化することができた。	B
ブロック内相互評価後の気づき	・年数回行っている小中相互の授業参観や意見交換会が定着し、児童生徒や教職員の相互理解を深めることにつながっている。9年間の教科指導カリキュラムを作成したが、今後の活用方法を検討していくことが課題であり、さらに小中の連携を深めていくことが必要である。・授業研究会などとおして、授業の内容、指導方法などの意見交換をすることで、もう一歩踏み込んだ交流ができるようにしていく。	・年数回行っている小中相互の授業参観や意見交換会が定着し、児童生徒や教職員の相互理解を深めることにつながっている。「9年間で育てていきたい資質、能力」をブロック内で共有し、今後の活用方法を検討していくことが課題であり、さらに小中の連携を深めていくことが必要である。・授業研究会などとおして、授業の内容、指導方法などの意見交換をすることで、もう一歩踏み込んだ交流ができるようにしていく。	
学校関係者評価	・八景小学校の子どもたちは落ち着いている。どのクラスも安心して見ていることができる。・個別支援級との交流もあり、子ども同士が誘い合っている姿が見ることができた。・1日1日の授業を確実に、大切にしたい。先生の姿を見て、「あのような字を書きたい」「あのような話し方になりたい」などと子どもの憧れの存在でいられるように、教師はその立ち居振る舞いにも気を付けていくことが大切である。・お互いに毎日の授業を評価しあいながら、よりよい授業を推し進められるとよい。	・八景小学校の子どもたちは、継続的な運動習慣があるので、体力がある。・あいさつ運動に継続して取り組んでいるが、授業研究や研修を通して、道徳の授業づくり力を入れるにはどうか。あいさつのできただけでなく、授業力が高めたり、学級経営の力を高めたりしていくことにもつながる。・子どもたちが自主的に動けるようにルールを細かく作りすぎるのではなく、子どもが自分で考え、行動する力を身に付けさせることが大切。日頃から子どもたちの姿をしっかりみとって、子どもたちに任せみることも必要。	B

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・重点研の研究テーマを「コミュニケーション能力の育成をめざした学校づくり」と設定し、子ども一人ひとりが「分かる、楽しい」と感じるような授業展開の工夫を図る。また、各学年の実態に合わせた相手の考えを受容する心、思いを伝える心を育てることで、いきいきと伝え合う子の育成や主体的に学び合う姿を目指す。今年度も理科、生活科を中心に学習環境を整え、取り組む。	今年度も、理科と生活科を中心に、子ども達が主体的に学ぶ姿を目指して取り組んできた。昨年度に引き続き生活科では、子どもの気づきを大切にし、理科では、興味を引き付ける実験や、考察の場面を大切にに取り組んできた。今後は、学習意欲を引き出すための授業展開について研究を深めていきたい。	B
豊かな心	・道徳の教科化に伴い、個性の伸長や相互理解、社会正義など新たに加わった内容について授業で取り上げ、自他を大切にすることを育てる。児童人権委員会「なかよしスマイル会」を通して、子どもたちが日頃感じている思いを取り上げ、子どもの目線からの人権意識の向上を図る。人権週間に人権朝会や人権講演会を行い、より豊かな心を育てる。	各クラスで道徳の授業に取り組み、思いやりの心などを養うよう指導してきた。また、個々の評価をあゆみに記載した。「なかよしスマイル会」では、学級や全校で困っていることを議題として話し合いを進め、人権週間に朝会で全校に呼びかけ、人権意識の向上を図った。人権ライブラリーの資料で「いじめについて」を学んだ。	B
健やかな体	・体育科の学習においては、一人ひとりの実態にあつためあてをもち、楽しく運動に取り組めるような授業を展開する。またスモールステップで、自分の成長を実感できるような場を工夫する。・運動に親しみ、健康面・体力面が向上するように、週一回の「外遊びデー」や、「マラソン週間」「長縄集会」等の取組を全校で実施する。	自分にあつためあてをもって学習に取り組めるよう、学習カードや練習する場の工夫などを行った。結果として成長を実感し、楽しみながら運動に取り組む様子が見られた。また「長縄集会」を年2回に増やしたり「マラソン週間」の時期を改善したりしたこと、さらに運動に親しみ様子が見られた。来年度も継続して、取り組んでいきたい。	B
特別支援教育	・全校の子ども一人ひとりを大切にすることを大前提とし、支援が必要な子どもたちを理解し継続的に支援するために、個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成した。作成や評価する日程を設定することにより、丁寧子どもが安心して学校生活を送ることができるように、スタンダードをもとに職員が同じ方向性をもってぶれない指導を組織的に行う。	年3回の研修で子どもと目を養うとともに、子ども一人ひとりに目を向けて、支援が必要な子どもたちに個別的教育支援計画や指導計画を作成した。子どもの情報交換を日頃から行い、職員全体で見守った。八景小学校職員スタンダードをもとにぶれない指導を進めてきたが、子どもの実態に合わせて次年度より精選していく。	B
いじめへの対応	・日々の子どもたちへの声かけや指導、支援の他に、5月に行うYPアセスメントシート及び年4回行ういじめアンケートを通して、いじめの早期発見、早期解決に努める。だれもが安心して学校生活を送ることができるように、「いじめ対策校内委員会」を中心に組織的に取り組む。地域や関係機関との連携を図る。	YPアセスメントシート及び年4回行ういじめアンケートを通して子どもたちの内面に寄り添い、いじめの早期発見、早期解決に努めた。今後は「いじめ対策校内委員会」での情報共有を充実させ、組織で対応する力を強く、だれもがより安心して学校生活をおくることができるようにしていく。	B
教育課程・学習指導	・ユニバーサルデザインの考えに基づき、授業に集中できるような学習環境を整える。また、課題解決型の授業を意識し、主体的な学びになるように学習計画を工夫する。・少人数やTTの授業、AT、取り出し学習などの学習サポーターによるきめ細やかな支援を行うことにより、基礎学力の向上に努める。	生活科と理科の学習に重点を置いて授業改善を行ったが「学ぶ意欲」をより向上させていく必要性を感じた。地域の材を生かし、人と関わり合いながら主体的に学んでいけるような教育課程の編成を来年度も取り組んでいく。少人数指導や取り出し学習を計画的に取り入れ実践したことで、支援を必要とする児童が安心して学習できた。	B
地域連携	・年間の学校、学年行事を地域、保護者に幅広く周知するとともに、地域のことについて話を伺うことができた。地域清掃活動、見守り隊の方々や商店街と引き続きかかわったり、地域の人材の方々と学びあう機会を行ったりするなどの活動が広がっている。・来年度はさらに地域との連携ができる活動を重視し、教育課程に位置付け、計画的に進める。	年間の学校、学年行事を地域に幅広く周知することで、教育活動に協力してもらうことができた。地域清掃活動、見守り隊の方々や商店街と引き続きかかわったり、地域の人材の方々と学びあう機会を行ったりするなどの活動が広がっている。・来年度はさらに地域との連携ができる活動を重視し、教育課程に位置付け、計画的に進める。	B
人材育成・組織運営	・学年研究会を充実させ、教材研究や児童理解を深めるようにする。また、経験豊かな教師が、経験の浅い教師に指導法を伝える研修の機会を設け、各教科の専門性を高めるとともに、メンターチームによる研修を月一回程度設ける。また、職員一人ひとりが組織を意識し、協働しながら組織運営できるようにする。	学年研究会を充実させ、また主題研究会を通して教員一人ひとりの授業実践力を高めることができた。メンターチームによる定期的な活動や、先輩教諭から教わる場面、相互に授業を見合う場面なども設けることができたので、今後も継続していく。情報機器を活用し、必要な情報をしっかりと共有、かつ簡略化することができた。	B
ブロック内相互評価後の気づき	・年数回行っている小中相互の授業参観や意見交換会が定着し、児童生徒や教職員の相互理解を深めることにつながっている。「9年間で育てていきたい資質、能力」をブロック内で共有し、今後の活用方法を検討していくことが課題であり、さらに小中の連携を深めていくことが必要である。・授業研究会などとおして、授業の内容、指導方法などの意見交換をすることで、もう一歩踏み込んだ交流ができるようにしていく。	・年数回行っている小中相互の授業参観や意見交換会が定着し、児童生徒や教職員の相互理解を深めることにつながっている。実務担当者同士でも年数回集まり、「9年間で育てていきたい資質、能力」について検討を重ね、「コミュニケーション能力」「他者への思いやり」「地域貢献できる児童生徒の育成」などのキーワードがでてきた。それぞれの小学校においても「育てていきたい資質・能力」を検討し、中学校へのスムーズな引継ぎができるようにしていきたい。	
学校関係者評価	・学校は、まちと関わる活動を多く行っている。その中で礼儀としてのあいさつは育っていくと思う。あいさつの課題には、家庭でのコミュニケーションの質の向上と社会的な礼儀としてのものがある。社会的な部分でのあいさつは、道徳などの授業を通してほしい。・地域の方や来校した方からは、「あいさつができていて、いいですね」という言葉をいただく場面もある。評価のとり方も考えていきたい。・学校では、想像力を養うことが大切であると考える。人の心は学校の中で育っていく。	・八景小学校の子どもたちは、継続的な運動習慣があるので、体力がある。・あいさつ運動に継続して取り組んでいるが、授業研究や研修を通して、道徳の授業づくり力を入れるにはどうか。あいさつのできただけでなく、授業力が高めたり、学級経営の力を高めたりしていくことにもつながる。・子どもたちが自主的に動けるようにルールを細かく作りすぎるのではなく、子どもが自分で考え、行動する力を身に付けさせることが大切。日頃から子どもたちの姿をしっかりみとって、子どもたちに任せみることも必要。	B

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	本校の子どもたちの実態を振り返り、重点研究のテーマを「自己肯定感を育み学習意欲を高める授業づくり」と設定した。「学習が楽しい」「友達から認められて嬉しい」と感じられる授業展開を目指していく。生活科と総合的な学習の時間を中心に研究を進め、いきいきと伝え合う子の育成や主体的に学び合う姿を目指す。	今年度は、総合的学習の時間と生活科を本校の重点研究授業として取り組んだ。子ども達が主体的に学ぶ姿を見るために何どのような授業をすれば良いのか職員間で議論し、試行錯誤しながら授業を作っていた。教科の特性から、子どもの意向に大きく左右される部分もあり、職員にとって難易度の高い研究になった。	B
豊かな心	児童人権委員会「なかよしスマイル会」を通して、子どもたちが日頃感じている思いを取り上げ、子どもの目線からの人権意識の向上を図る。人権週間に人権朝会や人権講演会を行い、より豊かな心と自己肯定感を育む。道徳の教科化と評価について職員間での研修を行う。また、道徳を中心とした授業参観を行い、保護者とともに意識を高める。	「なかよしスマイル会」では、子どもたちの人権意識をより高められるよう、低、中、高学年ごとに内容を設定し、実際におきた事例をもとにしていじめや暴力について真剣に考えられるように変えた。道徳では教科書を使用したことにより、指導方法の拡充を図ったり、評価方法を模索したりすることができた。	B
健やかな体	体育科の学習においては、一人ひとりの実態にあつためあてをもち、楽しく運動に取り組めるような授業を展開する。またスモールステップで、自分の成長を実感できるような場を工夫する。・運動に親しみ、健康面・体力面が向上するように、週一回の「外遊びデー」や、「マラソン週間」「長縄集会」等の取組を全校で計画的に実施する。	「外遊びデー」や「マラソン週間」「長縄集会」等の取組が定着し、子どもたちの運動への意識が高まっているが、年間を通して継続的に行うまでには至っていない。授業研究や学校保健委員会での「けがの防止」を取り上げたことで、校内におけるけがの発生場所や防止について意識と高めることができた。	B
特別支援教育	全校の子ども一人ひとりを大切にすることを前提とし、児童理解の情報交換を常日頃から行い、すぐに指導や支援に生かすことができた。支援が必要な子どもたちに個別的教育支援計画や指導計画を作成した。職員全体で見守りながら、保護者にも面談等を通して支援内容や成長を伝えることができた。スタンダードについてはあり方そのものを職員全体で話し合う必要が出てきた。	児童理解の情報交換を常日頃から行い、すぐに指導や支援に生かすことができた。支援が必要な子どもたちに個別的教育支援計画や指導計画を作成した。職員全体で見守りながら、保護者にも面談等を通して支援内容や成長を伝えることができた。スタンダードについてはあり方そのものを職員全体で話し合う必要が出てきた。	B
いじめへの対応	日々の子どもたちへの声かけや指導、支援の他に、年2回行うYPアセスメントシート及び年4回行ういじめアンケートを通して、いじめの早期発見、早期解決に努める。また、いじめが起らない学級経営に努める。「いじめ対策校内委員会」を月1回実施し、全職員で共通理解を図るとともに、地域や関係機関との連携を図り、組織的に取り組む。	日々の子どもたちへの声かけや指導、支援の他に、年2回行うYPアセスメントシート及び年4回行ういじめアンケートを通して、いじめの早期発見、早期解決に努める。また、いじめが起らない学級経営に努める。「いじめ対策校内委員会」を月1回実施し、全職員で共通理解を図るとともに、地域や関係機関との連携を図り、組織的に取り組む。	A
教育課程・学習指導	生活科と総合的な学習の時間に重点を置いて子どもたちの「学ぶ意欲」を高める授業づくりを行う。特に、総合的な学習の時間においては、地域の材を生かしながら主体的に学んでいけるような教育課程の編成を来年度も取り組んでいく。少人数指導や取り出し学習を計画的に取り入れ実践したことで、支援を必要とする児童が安心して学習できた。	生活科と総合的な学習の時間に重点を置いて子どもたちの「学ぶ意欲」を高める授業づくりを行う。特に、総合的な学習の時間においては、地域の材を生かしながら主体的に学んでいけるような教育課程の編成を来年度も取り組んでいく。少人数指導や取り出し学習を計画的に取り入れ実践したことで、支援を必要とする児童が安心して学習できた。	B
地域連携	「総合的な学習の時間」や「生活科」では、地域のことについて話を伺ったり、地域に向いて積極的に地域の材を生かした学習活動を計画したりする。登下校を見守って下さっている見守り隊の方々や学区の商店街との関わりを深め、子どもたちが地域と共に学べる環境をつくる。地域とともに防災体制の見直し・強化を図る。	「総合的な学習の時間」や「生活科」では、地域のことについて話を伺ったり、地域に向いて積極的に地域の材を生かした学習活動を計画したりする。登下校を見守って下さっている見守り隊の方々や学区の商店街との関わりを深め、子どもたちが地域と共に学べる環境をつくる。地域とともに防災体制の見直し・強化を図る。	A
人材育成・組織運営	学年研究会を充実させ、教材研究や児童理解を深めるようにする。また、経験豊かな教師が、経験の浅い教師に指導法を伝える研修の機会を設け、各教科の専門性を高めるとともにメンターチームによる研修を月一回程度設ける。また、職員一人ひとりが組織を意識し、協働しながら組織運営できるようにする。	学年研究会を充実させ、また主題研究会を通して教員一人ひとりの授業実践力を高めることができた。メンターチームによる定期的な活動や、先輩教諭から教わる場面、相互に授業を見合う場面なども設けることができたので、今後も継続していく。	B
ブロック内相互評価後の気づき	・年数回行っている小中相互の授業参観や意見交換会が定着し、児童生徒や教職員の相互理解を深めることにつながっている。実務担当者同士でも年数回集まり、「9年間で育てていきたい資質、能力」について検討を重ね、「コミュニケーション能力」「他者への思いやり」「地域貢献できる児童生徒の育成」などのキーワードがでてきた。それぞれの小学校においても「育てていきたい資質・能力」を検討し、中学校へのスムーズな引継ぎができるようにしていきたい。	・年数回行っている小中相互の授業参観や意見交換会が定着し、児童生徒や教職員の相互理解を深めることにつながっている。実務担当者同士でも年数回集まり、「9年間で育てていきたい資質、能力」について検討を重ね、「コミュニケーション能力」「他者への思いやり」「地域貢献できる児童生徒の育成」などのキーワードがでてきた。それぞれの小学校においても「育てていきたい資質・能力」を検討し、中学校へのスムーズな引継ぎができるようにしていきたい。	
学校関係者評価	・学校は、まちと関わる活動を多く行っている。その中で礼儀としてのあいさつは育っていくと思う。あいさつの課題には、家庭でのコミュニケーションの質の向上と社会的な礼儀としてのものがある。社会的な部分でのあいさつは、道徳などの授業を通してほしい。・地域の方や来校した方からは、「あいさつができていて、いいですね」という言葉をいただく場面もある。評価のとり方も考えていきたい。・学校では、想像力を養うことが大切であると考える。人の心は学校の中で育っていく。	・八景小学校の子どもたちは、継続的な運動習慣があるので、体力がある。・あいさつ運動に継続して取り組んでいるが、授業研究や研修を通して、道徳の授業づくり力を入れるにはどうか。あいさつのできただけでなく、授業力が高めたり、学級経営の力を高めたりしていくことにもつながる。・子どもたちが自主的に動けるようにルールを細かく作りすぎるのではなく、子どもが自分で考え、行動する力を身に付けさせることが大切。日頃から子どもたちの姿をしっかりみとって、子どもたちに任せみることも必要。	B

学校経営中期取組目標振り返り	重点取組分野において、具体的な取組内容を掲げたことにより学校経営の柱が明確になり、少しずつ取組が進んでいる。新たな重点化した「地域連携」では、これまでの活動を地域連携の視点でとらえ直し、生活科・総合的な学習の時間を中心に活動を推進することができた。地域とのかかわりもさらに深まっている。今後は教育課程の編成に向けて、系統的・計画的に教育活動に位置づけられるよう進めていく。また、学校の取組が保護者・地域に広く理解していただけるよう、ホームページの充実など情報発信を続けていく。
----------------	--

学校経営中期取組目標振り返り	今年度も、重点取組分野において、具体的な取組内容を掲げたことにより学校経営の柱が明確になり、取組が進んでいる。「いじめへの対応」では、子どもへのアンケート実施と、教職員の日々の子どもたちへのかかわりの双方向で取り組み、早期発見、早期解決に努めた。また、教職員同士の日頃からの情報交換、共通理解を図ることもできた。今後は、教育課程の編成に向けて系統的・計画的に教育活動に位置づけられるよう進めていく。また、学校の取組が保護者・地域に広く理解していただけるよう、ホームページの充実など情報発信を続けていく。
----------------	---

学校経営中期取組目標振り返り	今年度も、重点取組分野において、具体的な取組内容を掲げたことにより学校経営の柱が明確になり、取組が進んでいる。「いじめへの対応」では、アンケート実施や、毎月開催したいいじめ対策校内委員会により、早期発見、早期解決に努めることができた。教職員同士の日頃からの情報交換、共通理解も密に図ることができた。今後は、教育課程編成に向けて、各教科のカリキュラム作りを進めていく。本校の特色を生かし、地域の材を活用しながら教育活動を進めることができるように計画を立てていく。
----------------	--